

みどり
技術だより

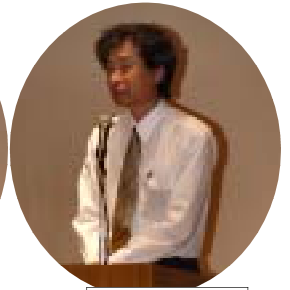


平成21年6月27日(土)午後2時~5時
屋久島町安房総合センター(鹿児島県屋久島町)

「屋久島世界遺産」研究フォーラム
屋久島の価値と科学の役割を開催!



津元局長



矢原教授

平成21年6月27日(土)屋久島町安房総合センターにおいて、九州森林管理局や屋久島町など関係6機関が主催・共催し、「屋久島世界遺産」研究フォーラム～屋久島の価値と科学の役割～を開催しました。

研究フォーラムには関係者や地元住民など約140名が参加。まず、津元頼光九州森林管理局長が「屋久島の世界遺産登録から15年が経過。入山者が大きく増大する中、屋久島の自然を世界遺産として価値あるものとして、将来にわたって確実に引き継ぐために、関係機関が連携し『屋久島世界遺産地域科学委員会』を設置することとなりました。本日のフォーラムを通して、科学的な立場での調査研究や的確な保全・管理体制が確立できるよう活発な討論をお願いします」とあいさつ。その後、「屋久島の価値と科学の役割」と題して九州大学大学院理学研究院矢原徹一教授が基調講演。引き続き鹿児島国際大学吉良今朝芳教授が進行役となり、「求められる屋久島、期待される調査研究」をテーマに5名のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。

最後に、浅野能昭九州地方環境事務所長が「世界遺産地域の保全・管理は、科学委員会の論議・知見だけでなく島民のご協力が不可欠、よろしくお願ひしたい」と述べ、研究フォーラムを閉会しました。

基調講演「屋久島の価値と科学の役割」

矢原 徹一 九州大学大学院理学研究院教授

パネルディスカッション

「求められる屋久島、期待される調査研究」

主催：九州森林管理局、九州地方環境事務所、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、屋久島町

共催：(財)屋久島環境文化財団

基調講演要旨

「屋久島の価値と科学の役割」

矢原 徹一 九州大学大学院理学研究院教授

屋久島の価値は2000m近い標高差が生んだ希少な生態系と自然景観。1000年を超えるスギの天然林をはじめ、屋久島固有の植物が生育している。課題は、ヤクシカの増加による絶滅危惧種への影響、入山者の増加、外来種の侵入など。また、科学者としての役割は、新種の発見などの価値の創出、課題に対する対応策の助言などである。一方、屋久島の強みは、豊かな気候風土と頑強な生態系、低い災害や湧水のリスク、安定した地域社会や人口、調査研究の蓄積などである。将来を決めるのはあくまでも島民、是非、世界的に価値あるこの場所を後世に残して頂きたいと締めくくられた。



会場風景



日高町長、吉良教授



閉会：浅野九州地方環境事務所長



受付と会場展示

「求められる屋久島、期待される調査研究」

パネリスト

【矢原徹一 九州大学大学院理学研究院教授】

理学博士、日本生態学会会長。専門は生態学、進化生態学。助手時代から屋久島の希少植物の分布とヤクシカとの関係を明らかにするプロジェクトを実施。本年5月、繁殖生態学分野での学術的貢献やみどりの保全活動が評価され「みどりの学術賞」を受賞。世界遺産登録後の変化として「登山者の増加で歩道周辺からミズゴケが無くなった」と指摘。また、「自然からの恵みを上手く使って、屋久島の自然の価値を次世代に伝える哲学を島の中で作ってほしい」と、科学者の立場で島民へ要望。

パネリスト

【吉田茂二郎 九州大学大学院農学研究院教授】

農学博士、専門は森林計画学。ヤクスギ天然林に設定した固定試験地におけるヤクスギの成長や動態に関する研究をはじめ、屋久島の古地図やヤクスギの年輪から過去のヤクスギの分布や動態を研究。「森林は自然と人間の関わりで成り立っており、立木だけでなく、倒木や切株も含めると現在から過去までの数千年の歴史が残っている」と屋久島の価値を評価。会場からの質問「人と自然の関係に係る哲学」に対し、「いかに持続可能な形で暮らしていくかが大切で、最後は島民が決めること」とコメント。

パネリスト 【太田五雄 登山家・ガイド】

日本山岳ガイド協会公認ガイド。屋久島山岳研究50年。屋久島環境共生企画を設立。昭和47年屋久島最初の山岳詳細地図作成。著書に「屋久島の山岳」「至宝の大自然・屋久島」など。屋久島の自然を記録する活動を現在も展開中。屋久島の価値は「これほど小さな島にこれほど豊かな自然があり、また岳参りなどの文化的な行事にも価値がある」と文化的面からも評価。今後の科学委員会での取り組みにおいては、「縄文杉だけで他にはあまり目を向けてもらえない。総合的な対応が必要」とコメント。

コーディネーターと各パネリスト



パネリスト 【日高十七朗 屋久島町長】

合併前の旧屋久町長を平成元年から平成19年まで務め、世界遺産への登録に関わる。合併後の初代屋久島町長として、集落の活性化が町の活性化につながるの理念から、各集落の特色ある文化や伝統を支援した政策を一貫して続けている。「今回の科学委員会の設置は、大変タイムリーであった。多くの研究が行われているが、とりまとめが十分行われていない。今後のルール作りのためにも、総括の議論が行われることが重要」とコメント。

パネリスト 【大山勇作 屋久島野生植物研究所主宰】

屋久島高校在職中から屋久島の保全活動に関わる。中途離職し、「屋久島野生植物研究所」を設立。研究所にガイド事業部を設け、自然インストラクターを始めるなど、島の自然や文化を伝える活動を継続している。「日本の文化を育んだ照葉樹林の日本中の形が垂直的に残されている」と屋久島の価値を評価し、世界遺産登録後の変化については「登山道に影響が出てきた。屋久島の登山の基本的な考えが必要」と問題提起。

コーディネーター 【吉良今朝芳 鹿児島国際大学教授】

農学博士。専門は環境社会学、森林環境学。屋久島での森林利用に関する研究を行ってきた。九州森林管理局で実施している森林生態系モニタリング調査や永田岳登山道植生回復事業の検討委員も歴任している。本フォーラムのコーディネーターとして、「この15年で想定外のことが起こった。町の産業構造は変わり、交流人口が増えたことで自然環境への負荷が高まった。今後は自然からの恵みを生かしていくことが求められるが、住民を主体とした持続的な活動に期待している」と総括コメント。

会場からの意見

会場から「屋久島には山だけでなく海もある。また、文化的な価値も大事」、「多様な森が残されているだけでなく、300年以上前から人が関わってきている」など島全体としての視点や文化の面からの価値感などの発言が、また、「世界遺産もあるが林業も知られる」と、産業の面からの意見も出されました。一方、世界遺産登録後の変化に対し、「山のトイレが開発が急務」、さらに、「どの時代の、『人と自然の関係』に戻すのか哲学が必要」などの意見が出され、パネリストと会場参加者との間でも活発な意見交換が行われました。



会場からの発言



湯湾岳にて

第2回九州森林倶楽部(特別企画)

希少野生動植物の宝庫
奄美大島2泊3日の旅



アダンの実



ヒメハブ



島唄

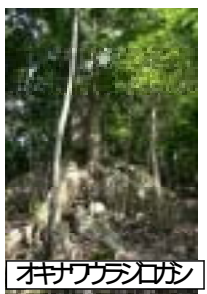


芭蕉の花、実?

7月11日～13日までの日程で、第2回九州森林倶楽部(特別企画)「～希少野生動植物の宝庫奄美大島2泊3日の旅～」を実施しました。今回の森林倶楽部には、遠くは東京都からの参加を含む21名が、奄美空港に集合しスタート。

初日は、まず奄美大島の北端に位置する「あやまる岬」へ。岬からの眺めは素晴らしく紺碧の空と澄透った海に、参加者は歓声を上げ記念写真に収まっています。その後奄美民族村にて「島唄」などを体験。夜の夕食交流会では覚えたての島唄や踊りを早速披露、参加者はすっかりうち解けた様子でした。

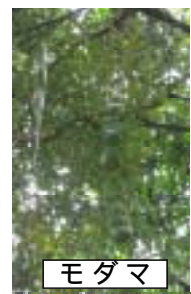
二日目は、名瀬森林事務所の大柿主席森林官と林野庁OBの藤本さんの案内で、今回のメインである金作原と湯湾岳国有林内の森林散策。金作原では、ヒカゲヘゴやオキナワウラジロガシの板根など南国特有の植物に目を奪われ、参加者は盛んにカメラのシャッターを押していました。その後、野生生物保護センターで奄美の希少な野生生物の映像や展示物を見学。参加者は奄美大島が希少な動植物の宝庫であることを認識しました。次に原生林が鬱蒼と繁る湯湾岳へ。ここでもシマオオタニワタリやアマミアオネカズラなど亜熱帯性植物を観察。さらに、マングローブの森や世界一巨大なさやを付けるモダマの群生地を見学し、盛り沢山の2日目を終えました。



オキナワウラジロガシ



ヒカゲヘゴ



モダマ

3日目は、芭蕉やソテツの群生地を見学。最後の奄美パークでは、島の歴史や文化についての展示や、奄美の自然を描き続けた画家、田中一村の美術館を見学し

全ての日程を無事終了。参加者は、奄美大島の3日間の思い出をバッキー一杯に詰め込み、島を後にしました。



あやまる岬にて

森林生態系「昆虫科」研修

指導普及課では7月9日から10日の2日間、森林総合研究所九州支所において、森林生態系研修「昆虫科」を実施しました。

研修は、同支所の後藤秀章氏を講師に迎え、各署の森林ふれあい係長など19名が受講。一日目は、野外で色々な昆虫トラップの説明を受けました。

二日目は、キクイムシの一種を標本にして顕微鏡で観察。研修生は普段気にもかけない虫の細かい体の造りに驚きの声を上げていました。

受講生は、今回は実習等の時間が多かったため、今後の森林の昆虫に関する外部の質問や相談等の対応に立ちそうだと自信を深めた様子でした。



昆虫トラップの一種

旬の花



シャシャンポ
熊本市 立田山

第1回実践・公開講座

葉の構造を学ぶ

6月28日、監物台樹木園において、平成21年度第一回「実践・公開講座」葉の構造を学ぶ」を開催しました。
今回の講座には、九州森林インストラクター会が募集した「森を学ぶ面白塾」のメンバーと合せ、45名の方に参加していただきました。

講座はまず緑の交流館内において、インストラクター会の安樂会長が、樹木の分類や用語の解説、葉の形や付き方、葉脈や鋸歯などの特徴と、葉の基本的な構造を説明。参加者は熱心にメモを取っていました。

その後、屋外で園内の樹木の葉をルーペで観察。



室内の講義

お知らせ

7月26日
第2回実践・公開講座
「絵手紙」
7月29日
九州森林・林業セミナー
(九州森林管理局)
8月20日
インターンシップ受入れ
(26日まで)
8月23日
第3回実践・公開講座
クラフト「新聞入れ」
8月24日
森の塾
8月26日
ニュージーランド海外研究者講演会(九州森林管理局)

参加者は、屋内での説明を踏まえ樹木の葉を手に取り、真剣な眼差しで観察していました。
当日の天気予報は雨。しかししばらく梅雨模様が続いていましたが、講座開催中は太陽が雲間から顔をのぞかせ、参加者は、園内に充満したフィトンチッドを胸一杯吸い込み、絶好の森林浴気分ですべてを回りました。

屋外観察は、樹木園内の全てを回る事が出来、参加者はすこぶるご満悦の様子。参加者から「今育てている植物に対し、より興味が湧いた」、「講座は大変役に立った。次回も参加したい」などの感想が述べられ、第一回の公開講座を終えました。



屋外授業は楽しい

編集後記

今年も熊本の街に、熱帯夜が続く暑い夏がやってきた。この暑い夏に欠かせないものと言えば「生ビール」に「エアコン」「アイスクリーム」。どれもこれも身体にとってはあまり良くないと思うのだが・・・。
どうしてもやめることができないで「エアコン」のタイマーと日々格闘している。

エアコンをあまり使わず熱帯夜を乗り切り、快眠を得る方法として「寝る2時間前にぬるめのお風呂に入る」「眠る3時間前から食事をとらない」「寝具を工夫する」が良く言われている代表例であり、今お店に行くと本麻のシートやイ草のゴザ、最新式冷感シートに冷感マクラ等々、いろんな快眠グッズが売られている。今年こそはそんな安眠グッズを購入して、冷房の温度を2～3度上げた「エコ」な夏を過ごしてみようかと思っている。



企画係 副島 利博



伝えたい木の文化、残したい美しい森
「美しい森林づくり推進国民運動キャッチフレーズ」



紙一枚からできる地球への思いやり

～九州森林管理局では地球温暖化防止のため、再生可能な間伐材製品利用を推進しています～